

第 5 回 産業応用部門論文委員会主査会議議事録（案）

日 時 平成 1 8 年 1 0 月 3 日（火） 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

場 所 電気学会（市ヶ谷） 第 4 会議室

出席者(敬称略) 深尾(編修長), 久保田(編修広報委員会副委員長, 明治大学), 大崎(研究調査運営委員会副委員長, 東京大学), 佐藤(D1主査, 千葉大学), 泉井(D2主査, 三菱電機), 岩路(D2副主査, 日立製作所), 井出(D3主査, 日立製作所), 竹下(前編修長補佐, 名古屋工業大学), 松井(前D1主査, 東京工芸大学), 森本(平成18年D部門大会論文委員長, 大阪府立大学), 大石(編修長補佐, 長岡技術科学大学)

提出資料

- 5-0 第 5 回産業応用部門論文委員会主査会 議題(深尾)
- 5-1 第 4 回産業応用部門論文委員会主査会議事録(案)
- 5-2-1 第 3 回編修方針アドホック委員会 議事録(案)(深尾)
- 5-2-2 電気学会論文誌のあり方に対する基本的な考え(深尾)
- 5-3-1 電子査読システム運用状況(大石)
- 5-3-2 電子査読システムに関する課題への対応策について(大石)
- 5-3-3 電子査読システムの督促クリックについて(大石)
- 5-3-4 取り下げ論文について(大石)
- 5-3-5 電子査読システムの今後の運用方法(大石)
- 5-3-6 平成18年度第1回編修会議議事録(案)(深尾)
- 5-4-1 D部門誌特集号の件(大石)
- 5-4-2 産業応用部門大会第20回記念特集号」のスケジュールと状況(森本)
- 5-4-3 半導体電力変換研究会特集号の提案(大石)
- 5-4-4 モーションコントロール特集号の提案(大石)
- 5-5 共通英文論文誌への投稿に関して(案)(久保田)
- 5-6 産業応用部門誌 論文査読マニュアル(松井)

議 題

1. 前回議事録確認

資料5-1に基づいて, 前回の論文委員会主査会の議事録を確認し, 承認した。

2. 編修方針アドホック委員会関係

資料5-2-1と資料5-2-2に基づいて, 深尾編修長より, 編修方針アドホック委員会に関する件を審議した。編修方針アドホック委員会の英文論文誌の流れが, D部門の方針とは若干異なる方向に進められていることが, 深尾編修長より報告された。D部門としては, Proc. Of IEEEの様な形式にすることを確認した。

電気学会論文誌をWEBで世界中から見られる様に早くする, 機械翻訳を学会のサービスと考えるべくではない, 論文掲載料を安くするべきである, 和文論文は残すべきである, などを確認した。

3．電子査読システムの運用状況関係

資料5-3-1に基づいて、電子査読システムの運用状況を確認し、承認した。資料5-3-2と資料5-3-3に基づいて、検討課題と対応策について審議をした。審議の結果、査読遅延が60日を超えた場合は編修長から督促メールを、各主査に順次出すことになった。査読者への依頼メールの受信確認メールを実施している、5日以内に受信確認の返事がない場合は直接査読依頼をすることを確認した。各特集号エディタが、電子査読システムのWEBを主査と同じ権限で閲覧できるようになっていることを確認した。

資料5-3-4に基づいて、一度査読に回った投稿論文の著者が、取り下げを申し出た場合に、該当取り下げ論文の電子査読システムのWEB上の管理をどのようにするかを審議した。審議の結果、取り下げ論文一式は破棄するが、受付番号を破棄すると欠番となり、運用上まずいので、状態の記録は残すことにした。

資料5-3-5と資料5-3-6に基づいて、現在、慶応大学の村上先生と西先生の方で、電子査読システムのサーバ機とソフトの管理と運用をお願いしている件と、学会の編修会議で議論されている外注企業に委託する件を議論した。また、電子査読システムは適宜修正をしながら、完全に電子査読を実行しているので、電子査読システムの修正がほとんど無くなる状態になるまでは、現行の慶応大学の村上先生と西先生に管理と運用をお願いしたいことが確認された。この件は、編修長補佐の大石から村上先生に直接確認をしてみることであった。

5．論文委員会ホームページに関して

岩路D2副主査が、論文委員会ホームページの公開を準備は出来ていることが報告された。論文委員会ホームページには、査読マニュアルはもちろん、論文委員会主査会の議事録も基本的には公開していくこととした。

6．特集号企画、準備状況に関して

特集号の企画と状況について審議をした。資料5-4-1に基づいて、産業応用部門大会第20回記念特集号について、本D部門大会論文委員長から状況報告があった。現在27件の応募論文があった。9月25日で応募締め切りとなっているが、多少の遅延はある程度待つことが報告された。

資料5-4-2に基づいて、産業応用部門大会第20回記念特集号の応募論文の中に、応募資格の無い投稿論文と、一般論文となってしまう特集号該当論文が数件存在していることが報告された。審議の結果、編修長から、電子メールで各著者に連絡して、対応することになった。連絡すべき該当著者は、森本特集号エディタから編修長へ連絡していただくことになった。

資料5-4-3に基づいて、半導体電力変換技術委員会から起案された「半導体電力変換研究会特集号」（2008年3月号）について、審議をした。審議の結果、起案書が所定の書式で再度提出して頂くとし、それ以外はOKとして、特集号を認めることとした。

資料5-4-4に基づいて、産業計測制御技術委員会から起案された「モーションコントロール特集号」（2008年6月号）について、審議をした。審議の結果、特集号を認めることとした。

7．共通英文論文誌への投稿に関して

資料5-5に基づいて、D部門のホームページに「英文での論文投稿をお考えの方へ」として、で英文論文誌の案内にリンクすることを審議した。審議の結果、これを承認した。

8．論文査読マニュアルについて

資料5-6に基づいて、D部門誌の論文査読マニュアルの最終版を審議した。審議の結果、これを承認した。なお、この論文査読マニュアルは、すぐに、D部門のホームページの論文委員会のホームページに掲載することとした。

9．その他

次回の主査会の開催日程は、メール等で検討することとした。大きな議題が無い場合は、メール審議で主査会を行うこととなった。

以上